

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	北海道森のようちえんリスタート事業
資金分配団体名:	特定非営利活動法人北海道NPOファンド
実行団体名:	特定非営利活動法人いぶり自然学校
実施時期:	2020年9月～2021年7月
事業対象地域:	北海道
事業対象者:	道内各地に住む幼児及び保護者

Version 3.2

日付: 20xx年xx月xx日

I. 事業概要

事業実施概要	もう一度幼児と保護者が屋外で遊び、森のようちえんの意義を共有し、コロナ禍によって失われつつある幼児と保護者の心身の健康を取り戻すための場と機会を提供した。具体的には、1. 全道で森のようちえんを実施している団体に協力してもらい、それぞれの団体にあった森のようちえんに参加できる場と機会を提供してもらった（のべ25団体1105人）。2. そこで、参加しなくなりつつある幼児や保護者にもう一度森のようちえんの意義を確認してもらい、今後の参加や参画を促すような普及啓発を行った。3. 指導者や運営者、ボランティアとコロナ禍においても活動を実施するための方法を考え、その体制を確立するための活動報告及び情報交換会を行った。報告会では今後の森の北海道での森のようちえんという手法の役割とその意義を広げていくための（仮称）森のようちえん全道ネットワークを設立し、無理のない範囲でネットワークかしていくことが決定された。
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	想定以上の団体と参加者数に参加協力をいただくこととなり、そのニーズの高さを改めて実感することができた。本当に子どもたちを連れて行ける場所、安心して子ども同士や信頼できる大人を出会わせられる場と機会がなくなってしまい、「久しぶりにお出かけしました」という声を数多く聞かれた。一方、この普及啓発をきっかけで森の幼稚園に出会った保護者の方も見受けられ、きっかけはコロナ感染予防、というマイナスイメージから始まったが、それは一部マニアの活動ではなく、徐々に普遍的で普通の活動になりつつあることも実感できた。一方、地域の中での活動は進められたが、地域間の交流を進めるにまで至らなかった。保護者のニーズとしては、「〇〇の森のようちえんに行ってみよう」という思いがあり、特に指導者同士や保護者同士が出会ってネットワーク化されたことをきっかけに、その要望が高くなったのだが、まだ感染対策の観点から地域外への移動は好ましくない、という理由からそこまでの発展を為し得ることができなかったことが残念である。同じように、興味関心を持つ学生ボランティアはたくさんいるが、特に札幌から他地域へボランティア参加できない事象が続き、惜しい状態となったことをなかなか突破することができなかった。現地、あるいはその地域で学生ボランティアを発掘することはとても困難であるため、今後の課題だということが言える。大学などの授業のオンライン化に合わせて、ボランティア活動に参加した先からリモート授業への参加をすることが認められるなど、構造的な仕組みの変革を促す必要があると考えている。
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	外出困難	・10団体が様々なタイプの森のようちえんを実施する。	・各団体の活動数	・10団体の募集と選定、活動実施	15団体の活動が展開された	想定していたよりも多くの団体がこの事業に賛同してくれたことが大きい。日常型からイベント型まで様々な団体が協力してくれた。
子ども・学生	外出困難	・各団体に、20名以上の親子が参加する。	・各団体の参加者数	・参加者数述べ200名 ・新規参加者数が述べ50名	延1105人の子どもと保護者が参加	特に、始めたばかりの団体に、「以前から興味を持っていました」という方が集まることとなった。
その他	居場所の不足	・幼児の自然体験活動の意義が保護者に伝わる。	・保護者むけ普及啓発リーフレットの配布数	・リーフレット配布200部	イベントチラシ合計400枚 ミーティングチラシ50枚	チラシは作成したが、それよりも各団体のSNSなどでそのPRや意義が伝えられた。使用者用テキストの頒布も行われた。
コロナで影響を受ける従事者	連携の不足	・各団体の活動に、学生ボランティアが10名以上参画する。	・ボランティア学生人数	・ボランティア学生参加述べ10名	ボランティア学生参加述べ8名	札幌から他の地域に行くことがとても困難であったため、目標値にたどり着けなかった。学生を地域で集めることは難しい。
コロナで影響を受ける従事者	連携の不足	・指導者および運営者がネットワークを構築し、相互扶助的な関係を構築する。	・メーリングリストやSNSが構築	・メーリングリスト登録10団体	slackによるメーリングリスト構築 合計17団体	事業の途中から、各種書類のやり取りや報告連絡相談がslackを通して進められることとなった。そのままネットワークツールとして活用されることとなった。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	全道の少なくとも10団体が、それぞれで20名以上の親子にその意義が伝えることができ、これまで通りの森のようちえんを実施運営できている状態。コロナに限らず、今後の有事の際にも森のようちえんが実施できる相互扶助的なネットワークが構築されている状態。各団体にボランティアスタッフが継続的に参画し、次世代を担う人材育成が展開されている状態。
考察等	この事業をきっかけで、「これから始めようと思っていた」という方の後押しができたことと同時に、「もうやめようと思っていた」という方の再考を促すことができたことが大きい。やはりコロナの影響で経営が苦しくなっていたので、そこに少しでも機会を作ることができたことが、団体数を増やす原因となったと考えている。また、ネットワーク構築についても、仰々しい大きな団体を作って、そのネットワーク維持が目的となってしまうような運営方法ではなく、少しでも手軽で、負担感のない運営方法で進めようという合意が取れ、slackというツールの上にネットワークを置くという方法が効果的であったと考える。学生のボランティアについては、学校のリモート授業が自宅ではなく各地域で暮らしながらできるような体制が取れば、「午前はリモート授業 午後は森のようちえん」という手法が導き出せると考えたので、そのようなアプローチを進めていきたいと思っている。

V. 活動

活動	進捗	概要
(1) 森のようちえんリスタート事業		
・全道の森のようちえん団体に向け実施概要の案内と団体の募集および選定、説明	計画通り	予定以上の団体に協力をいただいた。
・各団体とのスケジュール調整ののち、実施体制の構築と参加者募集、活動実施	計画通り	どの団体も大きな事故や怪我がなく、目的通りの活動を、その団体の特徴を生かして実施していただくことができた。
・ボランティアの募集と選定、スケジュール調整	遅延あり	特に緊急事態宣言中は、学生さんを札幌から送ることができず、調整に苦労した。
(2) ネットワーク事業		
・団体の関係者を集めたミーティング実施	計画通り	北海道中から人を集めることはとても困難ではあるが、想定通りの団体の皆さんにお集まりいただき、結果を出すことができた。
・メーリングリストの作成と登録、運用	計画通り	事業途中からslackを活用することで、スムーズな運用を進めることができた。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>お願いしていた団体から新しい団体を紹介されたり、これからやりたいという方に声をかけることができたことにより、新規開拓ができたことが想定外であり、かつ大きい成果だと考えている。また、ライブドローイングという手法を使って、ネットワークに関わってくれている方の共通目標を、イラストというわかりやすい表現で共有できたことは、何よりも具体的にできたことが大きい。その時にお呼びした絵師は、全国をまたにかけて活動されている方でもあるので、その方から全国に北海道の森のようちえんの有用性を発信してくれていることも大きな波及効果であると考えている。</p>
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>とはいえ、森のようちえんという活動は膨大な手間隙、そしてリスクを背負いながら十分な費用を捻出できる活動ではないので、その身分保障、あるいは金銭的補助が引き続き大きな課題であると言える。しかし、今回の事業を通して、既存の幼稚園やこども園が森のようちえんの手法を取り入れるために職員を募集したり、地域おこし協力隊のミッションとしてその地域の資源を活用した森のようちえんを実施してほしいなど、少しずつその価値が高まってきていると感じている。そこで、森のようちえんというミッションそのものを追いかけることだけに拘らず、森のようちえんの展開から得られる人脈や技術、資源を活用したサブミッションを充実させ、それらの展開から資金調達を行い、子どもたちに還元していくという仕組みを作り上げていくことが必要であると考えている。(ユースファーム、小規模里山畜養など)</p>
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
苫東・和みの森運営協議会	全国育樹祭の実施に向けた森のようちえん卒園時の活動
イコロの森（イコロの森を育てる会）	ミーティング会場の提供
一般社団法人New Education little tree	ミーティング講師（ネットワーク構築の有用性とその方法）
北海道水産林務部森林活用課	フィールド提供

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	4,500,000		0.0%
	管理的経費	500,000		0.0%
合計		5,000,000	0	0.0%

補足説明	
------	--

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	<p>森のようちえん 網走てくてく 1月31日 約100枚 ゆうち自然学校 約100枚 てしかが自然学校 3月20日 約50枚 どんころ野外学校 3月7日 7月3日 それぞれ約50枚</p>
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	
4.報告書等	ライブドローイングによるイラスト

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	いいえ	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	団体の監事による監査を実施し、監査報告書の提出を受けた
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	